

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日
平成 30 年 4 月 10 日

事務事業名		農業体験助成事業				事業区分		担当	
政策体系		政策体系上の位置付け				新規/継続 単独/補助		事務事業No. 020101000152	
総合計画の施策名		0201 学校教育の充実				単独		090101	
政策名		02 生きがいを育む学びのまちづくり				主要事業		所属課 学校教育課	
施策名		01 学校教育の充実				対象外		グループ 総務グループ	
手段名		01 ①教育内容の充実				市長マニフェスト 未来PJ事業 合併建設計画事業		対象外	
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目						単年度繰返し (平成8年度~)			
会計 01 款 10 項 01 目 07 事業 00 細 00						一般会計			
法令根拠						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
桜川市立の3小学校において学童農園を設置し、3校とも全校児童で地域の方やPTA等の協力を得て、農業体験事業を実施している。 稲作においては田植え、除草、稲刈りのほか、収穫祭(餅つき・赤飯炊き)などを行っている。畑作では、トウモロコシ、サツマイモ、ソバ等を作付けし、種まき・苗の植え付け、草取りを行い、そして収穫・試食など様々な体験活動を行っている。 ・谷貝小学校 トウモロコシ、サツマイモの栽培 ・榊穂小学校 稲作、野菜類の栽培 ・紫尾小学校(桃山学園) もち米の栽培 この3小学校に対し農業体験活動に要する経費は予算令達により執行している。	学校予算配分事務

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
学校予算配分事務	農業体験活動実施校数	校	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
市内小学生	市内小学校の児童数	人	2,084.00	1,998.00	1,977.00	1,977.00	1,977.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
勤労生産の喜びを肌で感じてもらう。	農業体験活動参加児童数	人	262.00	218.00	705.00	705.00	705.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費内訳	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	期間限定総投入量
財源内訳	県支出金 千円	0	0	0	0
	地方債 千円	0	0	0	0
	使用料・手数料 千円	0	0	0	0
	その他 千円	0	0	0	0
	一般財源 千円	114	114	114	0
	事業費計(A) 千円	114	114	114	0
人件費	正規職員従事人数 人	1.00人	1.00人	1.00人	
	述べ業務時間 時間	3.00	3.00	3.00	
	人件費計(B) 千円	9	9	9	
	トータルコスト(A)+(B) 千円	123	123	123	

事業費の内訳	29年度事業費 実績(千円)			30年度事業費 予算(千円)		
	08 報償費	103		08 報償費	103	
11 需用費	11		11 需用費	11		
	合計	114		合計	114	

(4) 当該年度の実施内容

30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
<p>※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 		

事務事業名	農業体験助成事業	事務事業No.	20101000152	所属課	学校教育課
-------	----------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 合併前の真壁町の小学校4校において、平成8年度から15年度までの7年間、県の農林補助事業を取り入れて実施する。平成16・17年度は真壁町の単独補助事業により実施する。町村の合併後の平成18年からは、市単独補助で真壁地区の3小学校で実施している。当初の3年間は、県の補助事業により実施。その後については、市の単独補助事業により実施してきたが、平成20年度からは実施校へ補助金交付でなく予算令達により実施している。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? ・土地所有者や作物を栽培するための指導者や協力者の謝礼、種苗代等の必要経費の増額を願いたい。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容 改革改善を行う

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) 結びついている 働くことの喜びを体験し、その生産物の大切さを認識させるとともに豊かな心の育成を図ることは学校教育の充実に結びつく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) 妥当である 児童に「生きる力」を身に付けさせることは、市の責務である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) 向上余地がない 勤労生産の喜びや、食料生産の大切さを理解した児童が大半を占めているので、成果はほぼ達成できていると思われる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) 影響有 廃止・休止は体験学習事業の充実が図れない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 余地がない 他に類似事業はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) 削減余地がない 事業費は土地代・種苗代・肥料代・機械借上代等で必要最小限である。人件費において、学校予算執行に係る必要最小限の指導事務で削減の余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) 見直し余地がある この事業は市立小学校11校のうち、事業実施校が3校であり、未実施校にたいしては不公平感はある。しかし、この事業を実施するためには学校に近隣する場所の確保や年間を通しての農作業の指導者や協力者が必要である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ②有効性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ③効率性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 □ 適切 ■ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・この事業は農業体験活動を通して、勤労生産の喜びや生産物の大切さを理解させ、児童に豊かな心を養わせるためには最適な事業であるが、市立の小学校11校中、市予算での実施校が3校である。各学校とも実情にあわせた農業体験をしているので、要望、支援し継続していく。																					
(3) 今後の事業の方向性 □ 終了 ■ 継続 → ■ 改革改善を行う → □ 廃止 □ 休止 □ 現状維持 (複数回答可) □ 目的の再設定 □ 効率性の改善 □ 有効性の改善 ■ 公平性の改善 □ 統廃合ができる □ 連携ができる	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下			×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持			×																		
	低下			×																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ・この事業を実施するためには、学校に近接する場所の確保や年間を通しての農作業の指導者や協力者が必要である。																						
(6) 事務事業優先度評価結果 <table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>-</td> </tr> </table>		成果優先度評価結果	-	コスト削減優先度評価結果	-																	
成果優先度評価結果	-																					
コスト削減優先度評価結果	-																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄 確認
--	---